



新しい学校を創っていく冒険を始めよう！ 貝塚市立二色学園が開校しました



令和6年4月に貝塚市立二色学園が泉南地区で初めての義務教育学校として開校し、4月12日（金）に二色学園屋内運動場において開校式が行われました。

式の中では、鈴木教育長から校長に新しい学校旗が授与され、新しい校歌も披露されました。

宮瀧校長は、「二色学園はみんなをのせた大きな船です。力強く輝く太陽を友だちに、広く青い海を進んでいきます。さあ、新しい二色学園を創っていく冒険が始まります。力を合わせて頑張りましょう。」と、子どもたちに呼びかけました。

また、生徒会代表の生徒は、「私たちはこれから始まる新しい世界で、二色学園の未来のために1年生から9年生全員が力を合わせられる学校をめざします。学年の壁を越えて、学校全体で団結することで仲間との絆が深められます。みんなが安心して、気持ちよく過ごせる二色学園をつくり、新たな歴史と伝統を築き上げていくことを誓います。」と想いを述べました。

参列された酒井市長はじめたくさんの来賓の方々に見守られ、華やかで思いのこもった開校式となり、1年生から9年生の児童生徒にとって、貴重な経験となったことでしょう。



「この学校は大きな船で、今から進んでいきます。」という校長先生の言葉が心に残りました。私たちが二色学園を進めて、新しい文化などをつくっていくのだなあ。と改めて思いました。校長先生の言葉を思い浮かべつつ、新しい良い学校を創っていきたいです。



後期課程の生徒会の皆さんが、二色学園の目標をしっかりとつくりつけて、紹介してくれました。私はこの目標に向かって二色学園をつくっていきたいと思いました。また、新しい校歌も貝塚の良いところがたくさん入っていていいなと思い、がんばって覚えていきたいと思いました。



自転車に乗るときはヘルメットをかぶりましょう ～自転車乗車時のヘルメット着用全年齢層で努力義務に～

道路交通法の一部改正により、令和5年4月1日から、全ての年齢層の自転車利用者にヘルメット着用が努力義務になりました。

具体的には、「①自転車に乗る時にはヘルメットをかぶること、②自転車に同乗させる人にはヘルメットをかぶらせること、③子どもが自転車に乗る際に保護者はヘルメットをかぶらせること」に努めなければなりません。

今回の法律の改正の背景には、自転車事故の増加があります。自転車乗用中の交通事故のうち死亡事故となった確率を見てみると、ヘルメットを着用していなかった場合の確率は、着用していた場合に比べて、約2倍になるというデータもあります。

教育委員会は、道路整備課や警察と連携して各校で実施している交通安全教室で、ヘルメットの着用について子どもたちに啓発しています。園児、児童、生徒の大切な命を守るための取組みを今後も進めていきたいと考えておりますので、保護者のみなさまにもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



岩橋善兵衛の物語が絵本になりました

岩橋善兵衛の物語が「善兵衛さんの望遠鏡」という絵本になりました。

右のQRコードを読み込んでいただくと、デジタル絵本として篠笛の調べにのせた読み聞かせ動画をご覧いただくことができます。

ぜひ一度、子どもたちと一緒に開いてみてください。



空港で働く人たちの仕事を体験することができてよかった！ 貝塚学キャリア教育企画 関西国際空港見学会



令和6年3月28日（木）に、貝塚学キャリア教育企画「関西国際空港見学会」を実施し、市内の小学生19名が参加しました。

当日は、関西国際空港で航空災害や自然災害に備え24時間体制で空港の「安全・安心」を守っている空港消防隊員の方から仕事の内容について教えていただいたり、全日空のグランドスタッフの方から、グランドスタッフを志した理由や仕事のやりがいについてのお話を聞いたりしました。

消防隊の方による放水活動では、勢いよく放出される水に驚いたり、グランドスタッフ



の模擬体験業務では、荷物を預ける際に付けるタグを慎重に貼ったりと、様々な体験をすることができました。

見学会後、「空港で働く人たちの仕事を体験することができてよかった。」
「空港での仕事に興味を持つことができ、将来の仕事の選択に役に立った。」
などの感想が寄せられました。

子どもが子どもでいられる街に ヤングケアラーに気づき、声をかけ、手を差し伸べて



ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家族のケアを日常的に行っている子どものことをいいます。

家事、家族の身体的・精神的・医療的なケア、きょうだいの世話、家族のために通訳や労働をするなど、人それぞれ、様々な家族のケアを行っています。家庭を支える大きな役割を引き受け、勉強に励む時間、部活に打ち込む時間、友人との時間など、「子ども

としての時間」と引き換えに、家事や家族の世話に時間を費やしているのです。

このような子どもたちは、一見大きな負担を抱えているように見えなくてもいいかもしれません。だからこそ、まわりが気づき、声をかけ、手を差し伸べることが大切です。

下記のような相談窓口もあります。気になることがある場合には、ぜひご利用ください。

学校においては、子どもたちが家庭のことで悩んでいないか、負担に感じていないかなど、子どもたちが発するSOSを見落とさないように、注意を払っていきます。

「自分はヤングケアラーかも」と思っているみなさんへ

家族の手伝いや手助けをするのは「ふつうのこと」と思うかもしれません。

でも、「あまり友だちと遊べない・・・」「自分の時間がない・・・」「宿題とか勉強する時間がない・・・」など、学校生活に影響が出たり、心やからだに不調を感じるほどの負担がかかっていませんか？

困ったときに一緒に考えてくれる人が必ずいます。周りの大人や友だちなど、信頼できる相手に勇気を持って話してみてください。

教育に関する悩みの電話相談 【教育研究センター教育相談室】



コスモスダイヤル

フリーダイヤル 0120-222-674

072-433-7110

月・水・木（祝日を除く） 9:15～16:45

学校生活で悩んでいることはありませんか？
困っていることはありませんか？
いじめや不登校などについて、
誰でも相談できます。
コスモスダイヤルに電話してね！



虐待やヤングケアラーなど
子どもに関する相談全般
貝塚市役所子ども部子ども相談課

平日 8:45～17:15

072-433-7022

虐待や子どもの福祉
ヤングケアラーなどに関する相談
児童相談所相談専用ダイヤル

年中無休 24時間対応

0120-189-783

いじめやその他子どものSOSに
ついて、子どもや保護者の相談
24時間子供SOS相談ダイヤル

年中無休 24時間対応

0120-0-78310